## 兵庫県立大学

# 兵庫県立大学AP事業成果報告

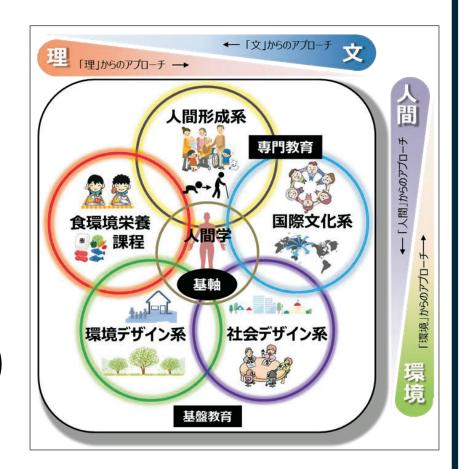
## 一環境人間学部における取組一

#### 本学でのAP事業 (構想含む)

- ・H28~R1 環境人間学部が先導的に事業を推進
- ・R1~R2 他学部で全学展開に向けた準備
- R3~ 全学展開

#### 環境人間学部

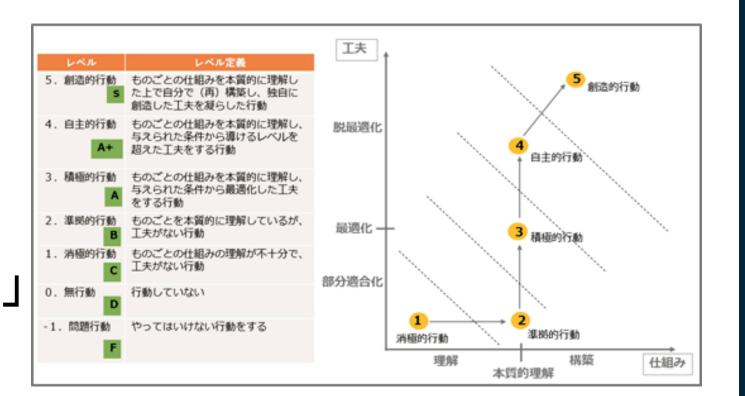
- 1学年:約200名
- 文理融合型
- ・2年生から専門の系に配属
  - ※食環境栄養課程(入学時から配属)



### 1. 学部DPルーブリック

学部のディプロマポリシー(DP)の達成度を評価するための 共通指標としてルーブリックを作成した

- ●学部DPルーブリックのレベル
- ・「仕組み」と「工夫」の2軸 からなる成長モデルを描き 各レベルを定義
- ・「ものごとの仕組みを理解した上で、行動に工夫を加える」という目標を表現



- ●学部DPルーブリックの作成
- ・学部DPを4つのスキル (13の力)に具体化
- ・13の力を5段階で記述



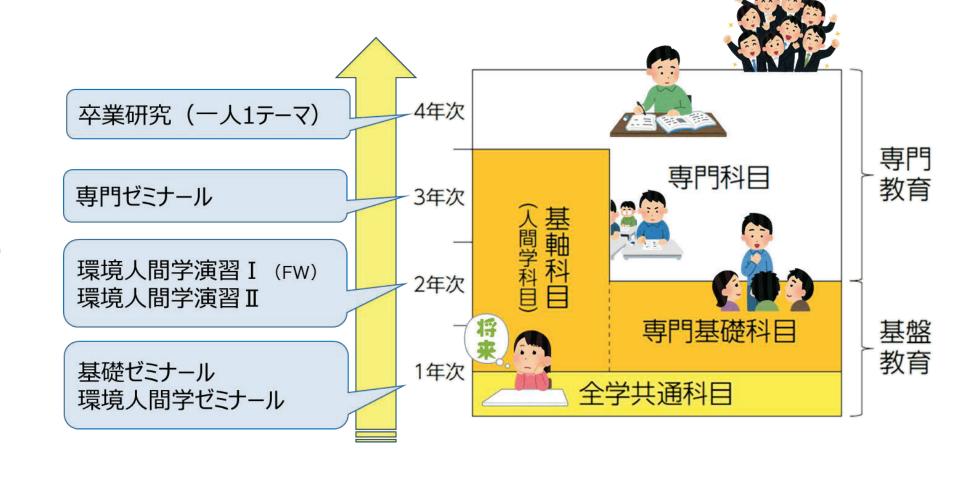


環境人間学部ルー	-ブリック							環境人間学部AP委員会 2019/5/	
学部DP	中区分	基礎力名	基礎力定義	レベル1の記述 (消極的行動)	レベル2の記述 (準拠的行動)	レベル3の記述 (積極的行動)	レベル4の記述 (自主的行動)	レベル5の記述 (独創的行動)	
				ものごとの仕組みの理解が不十分で、 工夫がない行動	ものごとを本質的に理解しているが、 工夫がない行動	ものごとの仕組みを本質的に理解し、 与えられた条件から最適化した工夫を する行動	ものごとの仕組みを本質的に理解し、 与えられた条件から導けるレベルを超 えた工夫をする行動	ものごとの仕組みを本質的に理解し 上で自分で(再)構築し、独自に倉 した工夫を凝らした行動	
<ul><li>①環境と人間の暮らし</li><li>に関わる幅広い知識を 有している。</li></ul>		情報整理力	必要な情報を収集・整理し、 活用する力	情報収集手段の特性と目的に応じた情 報収集手段を知らない	情報収集手段の特性を理解した上で、 必要な情報を適切な手段で収集するこ とができる	収集した情報をグループ分けをし、グ ループにラベルをつけて整理すること ができる	収集した情報をグループ分けをし、グ ループにラベルをつけて整理し、必要 なときに活用することができる		
②各専門の系または課程において、技術、政策、文化などの専門知 識を身につけ、深く思	知識構築スキル	論理的思考力	事実や根拠に基づいて論理を 展開するカ	事実や根拠に基づいて、論理を展開す る方法を知らない	事実や根拠に基づいて、 論理を展開する方法を知っている	事実や根拠に基づいて、飛躍や誤りが ない論理を展開することができる	事実や根拠に基づいて飛躍や誤りがない論理を展開することができ、物事を 俯瞰し全体像を捉えることができる	事実や根拠に基づいて飛躍や誤りかい論理を展開することができ、物事 俯瞰し全体像を捉え、構成要素を整 することができる	
考することができる。  ③情報の収集・分析・ 考察を通して、環境と 人間のあるべき姿について創造的に思考し、 課題を見出すことができる。		知的探求力	興味を持ち、問いを立てる力	授業などの内容を正確に捉えるため に、質問することができない	授業などの内容を正確に捉えるため に、質問することができる	授業などの内容をさらに理解を深める ための質問をすることができる	自分(達)が取り組むべきことを「問い」として表現することができる	自分(達)で立てた「問い」を派させ、問いの範囲を広げていくことできる	
		構想力	立てた問いへの道筋を構想するカ	自分(達)が立てた問いが持つ条件を 整理することができない	自分(達)が立てた問いが持つ条件を 整理することができる	自分(達)が立てた問いが持つ条件を 整理し、道筋を構想することができる	自分(達)が立てた問いが持つ制約 条件を整理した上で、現実的な道筋を 構想することができる	立てた問いや道筋に対して評価をし 磨き上げていくことができる	
④各自が目標を設定 し、その実現にむけた 計画を立て、行動する ことができる。	自己成長スキル	感情把握力	自分の感情を認識し、言動を調整する力	自分の感情の理由を自覚していない	自分の感情の理由を自覚している	自分の感情の理由を自覚し、言葉にし て説明することができる	自分の言動を調整することができ、負 の感情をも行動のエネルギーに変える ことができる		
		自己肯定力	積極的に行動を起こし、自分 のことを肯定的に評価するカ	失敗を恐れ、積極的に行動することが できない	ると自分の能力が低いせいだと思い、	失敗を恐れず行動することができ、失 敗しても原因や結果を相対化し、自分 の能力や行動を肯定的に評価すること ができる	自分のことを肯定的に評価した上で、 将来に対して積極的な目標を掲げ、そ れに邁進することができる	自分のことを肯定的に評価した上で 将来に対して積極的な目標を掲げ、 れに邁進し、逆境にも耐えることか きる	
		行動持続力	自分で目標を設定し、最後ま でやり抜くカ	自分の興味や関心があることがはっき りしていない	自分の興味や関心があることがわかっ ている	将来のことを視野に入れながら、自分 の興味や関心に沿った目標を設定でき る		将来のことを視野に入れながら、自 の興味や関心に沿った挑戦的な目標 設定し、逆境にも耐え最後までやり くことができる	
⑤環境と人間の離らし に関わる課題解決にむ けて、多様な価値観を 尊重し、他者と協働す ることができる。	人間関係スキル	親和力	他者と親和的な関係を築く力	自分と異なる立場の相手や異なる考え を持つ相手に興味がない	自分と異なる立場の相手や異なる考え を持つ相手に興味はあるが、理解を示 すことができないことがある		自分と異なる立場の相手や異なる考え を持つ相手に興味を持ち、理解を示す ことができ、築いた人脈や関係性を維 持することができる	異なる立場や異なる考えを持つ者に 士の仲介役を担い、築いた人脈や関 性を維持することができる	
		協働力	目標に向けて協力しながら行 動する力	チームの目標やチームが置かれた状況 を理解することができない	チームの目標やチームが置かれた状況 を理解することができる		チームの目標やチームが置かれた状況 を理解し、自分の役割を自ら進んで考 えて行動することができる	チームの目標やチームが置かれた状 を理解しており、周囲の状況に気を りながら、状況をよい方向に変える めに行動することができる	
		討議力	他者と建設的に議論をするカ	取り組みの目的・状況を考慮し、自分 の考えを伝えることができない	取り組みの目的・状況を考慮し、相手 に自分の考えを伝えることができる	取り組みの目的・状況を考慮し、相手の意見に対して応答することができる		取り組みの目的に合わせ、人を集め り場をつくることができ、整理やた づけによって議論を発展させていく とができる	
	課題解決スキル	課題設定力	具体的な状況の中で課題を設定する力	具体的な取り組みの中でうまくいって いないことや課題を発見することがで きない	具体的な取り組みの中でうまくいって いないことや課題を発見することがで きる		具体的な取り組みの中で上手く機能していないことや課題を発見し、その原因を考察し、自分がするべきことを設定できる		
		計画立案力	目的実現に向けて、達成目標と適切な計画を立てる力	目的実現に向けて達成目標を立てることができない	目的実現に向けて達成目標を立てることができる	目的実現に向けて達成目標とおおおま かな計画を立てることができる	目的実現に向け立てた計画の実現性を 吟味することができる	目的実現に向け立てた計画の実現性 吟味し、状況に応じて計画を修正す ことができる	
		実行力	計画を行動に移し、計画に修 正を加えながら実行する力	立てた計画を実行に移すことができない	立てた計画を実行に移すことができる		立てた計画を実行に移し、自分の行動 を振り返り得たことを他の機会で活か すことができる		

#### 2. 中軸科目における評価指標

学部の中軸となる科目において、DPの達成度を評価する ために評価指標を明確化した

- ●学部の中軸となる6科目
  - 少人数制
  - 演習科目
  - ・全学期を網羅



- ●中軸となる科目の評価指標
  - ・学部DP(スキル)と中軸となる科目との対応を明確化
  - ・学部DPルーブリックをメタルーブリックとし、 中軸となる6科目の成績評価指標を作成

	DP①, DP②, DP③							DP4			DP5		
	知識構築スキル				自己成長スキル			人間関係スキル			課題解決スキル		
	情報	論理的	知的	構想力	感情	自己	行動	親和力	協働力	討議力	課題	計画	実行力
	整理力	思考力	探求力	ניטידוו	把握力	肯定力	持続力	APOT H Z Z	ر راندا رازیا	L J AZZ J J	設定力	立案力	2(1373
基礎ゼミナール	$\circ$	0	0					0	0				
環境人間学ゼミナール	0	0	$\circ$	$\circ$				0	0	$\circ$			
環境人間学演習 I (FW)	0							0	0	0	0		
環境人間学演習Ⅱ	0	0	0	0						$\circ$	$\circ$		
専門ゼミナール	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

### 3. eポートフォリオ「My ログ」

eポートフォリオ「My ログ」を開発し、DP達成促進のためにMy ログを活用した学修支援を行った

●My ログの主な機能



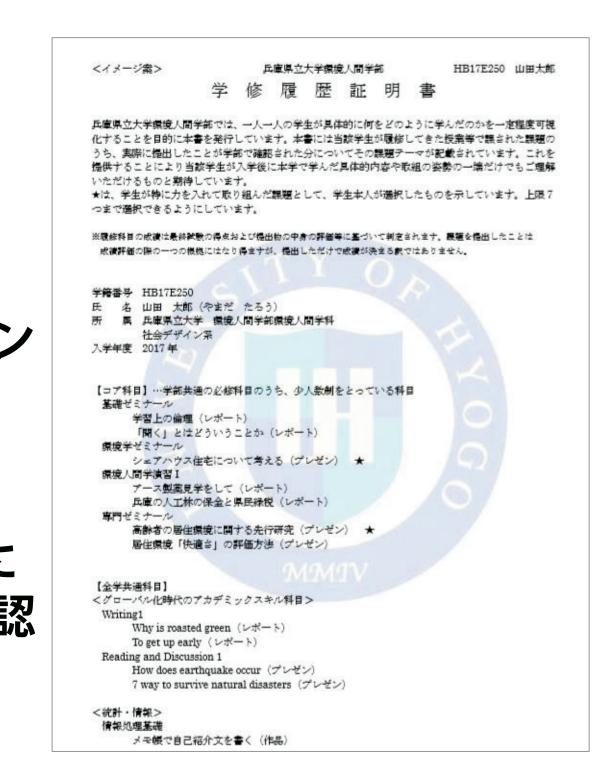
- ・学部DPスキルチェック 学部ルーブリックの13の力を 5段階で自己評価
- プロジェクトシート 力を入れて取り組んだことを ストーリーとしてまとめる
- ラーニング・ログ 授業で作成したレポート, プレゼンテーション,作品 などを蓄積
- My ログを活用した学修支援
- ・支援の場
- 1年生前期必修科目「環境と人間」
- ・目的
- ・学部の教育目標と伸ばすスキルを知る
- ・自己評価と学修のふりかえりを通して 意識的にスキルを伸ばす



#### 4. 学修履歴証明書

個々の学生の具体的学修内容を可視化する学修履歴証明書を開発した

- ●学修履歴証明書の開発
- ・背景 授業での学生の取組を企業などの 社会に対して提示する機会がない
- 証明書の内容学生が作成したレポート, プレゼンテーション, などのタイトル
- ・仕組み My ログのラーニング・ログ機能に 登録された課題のうち,教員に承認 されたものを一覧化して発行



- ●課題と今後の展開
- ・「質保証」の要素の欠如
- →科目に成績評価を印字する仕様に変更予定
- ・活用シーンと運用方法の具体化
- ・教職員による労力、手間の軽減